

各務原市総合計画後期基本計画にかかる 市民ワークショップ結果報告書

各務原市企画総務部企画政策課

平成 30 年 11 月作成

目次

- 1. 実施概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～4
- 2. ワークショップの写真・・・・・・・・ 4～5
- 3. ワークショップの結果（基本目標1～8）・・・・ 6～21
- 4. コミュニティ診断士のコメント・・・・・・・・ 21

1. 実施概要

(1) 実施目的

平成 27 年に策定した各務原市総合計画の前期基本計画が平成 31 年に終了するため、平成 32 年度から平成 36 年度を計画期間とする後期基本計画を策定します。市民の意見を反映するため、まちづくりのアイデアや意見を聞くワークショップを開催しました。

(2) 実施日程

日時	参加者数	場所
11 月 6 日 (火) 19 時～21 時	21 名 3 グループ	市産業文化センター 2 階第 3 会議室 (那加桜町 2-186)
11 月 7 日 (水) 19 時～21 時	15 名 2 グループ	
11 月 8 日 (木) 19 時～21 時	14 名 2 グループ	

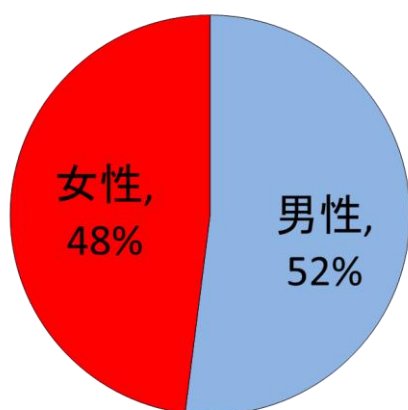
(3) 参加者の構成

参加者は各務原市内在住、在勤、在学の原則 15 歳以上の方を対象とし、市民満足度調査、広報紙、市の情報メールなどを活用して公募しました。

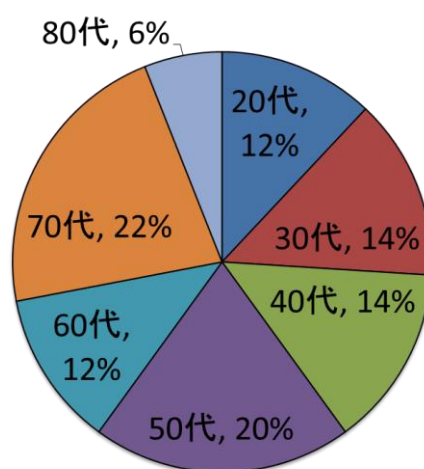
参加者の男女比率、年齢構成比率、地区構成比率は以下のとおりとなりました。

参加者延べ人数：50 名

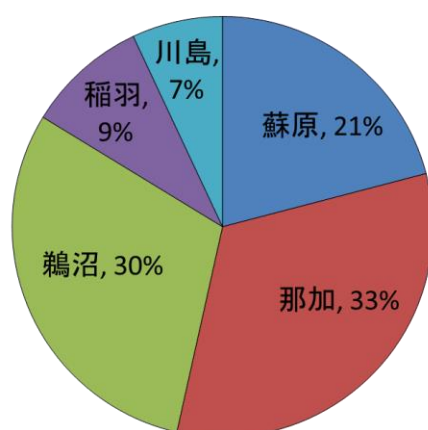
男女比率



年齢構成比率



地区構成比率



(4) 実施方法

- ・参加者を6～7名でグループ分けをしました。
- ・1グループにつき1名の※コミュニティ診断士を進行役として配置しました。
- ・必要に応じて市の状況を説明する説明員を配置しました。
- ・模造紙、ふせん等を活用して、進行役を中心に共通質問に関する意見を出し合いました。
- ・出てきた意見をふせんに記載し、模造紙に張り付けました。
- ・各テーマについての意見交換が終わり次第、進行役によるまとめを行いました。

※コミュニティ診断士とは…

地域コミュニティの現状について調査・分析を行い、それにより明らかとなった諸課題について、地域住民、自治・地縁組織、NPO、企業など地域の様々な主体と協働して、その解決・改善に取り組み、地域コミュニティの再生・活性化を推進するコミュニティの専門家。岐阜県及び岐阜経済大学が認定。

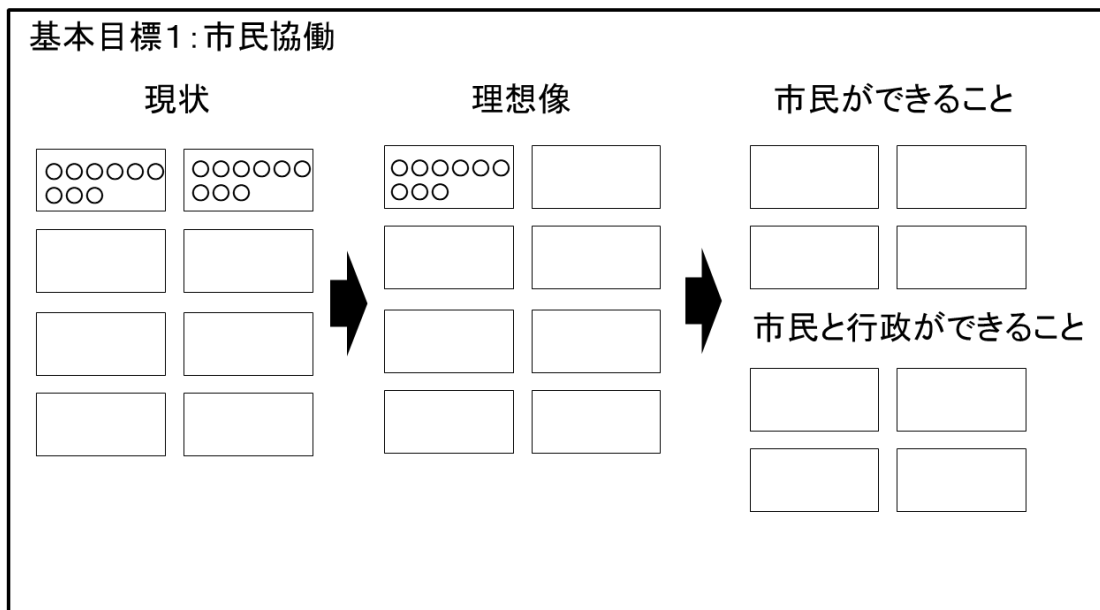
(5) テーマ

総合計画に掲げる各基本目標をテーマとし、テーマごとに意見を出し合いました。各テーマについて現状と理想像を考えていただいた上で、現状から理想像へとつなげるために、①市民ができること、②市民と行政で協力して実施できることの2つの視点で意見を出し合いました。

テーマ（基本目標）

市民協働、教育・文化・スポーツ、環境、保健・医療、福祉・社会保障、防犯・防災、基盤整備、産業

模造紙のイメージ図



ふせん			
-----	---	--	--

2. ワークショップの写真





3. ワークショップの結果（基本目標1～8）

【基本目標1：思いやりとふれあいのある協働のまち（市民協働）】

まちの現状
市民協働 行政と市民との連携がうまくいっている 「まちづくりミーティング」などで市民と直接話をするのは良い まちづくりに関わる場が用意されている 職員と市民に距離感がある アイデアを実行しようと思っても市からの規制が多い 行政に横のつながりがない 市民協働が職員に浸透していない 自治会・広報活動 同世代の人は自治会に加入していない 自治会に入っても活動には参加していない 班が機能していない 自治会活動の負担が大きい 個人情報保護による情報共有の妨げがある 広報、宣伝活動が活発でない
あなたが思うまちの理想像
市民協働 市民と行政が話す場がたくさんある 世代を超えた交流がたくさんできている 若い人がまちづくりに参加している 市民活動の拠点がある 総合的に市民の声を聴ける課がある 若い人がたくさん各務原に来る 自治会・広報活動 大人から子どもたちにあいさつができる 誰とでも気軽に話ができる明るいまち 地域みんなで子育てや子どもを見守っている

理想像の実現に向けて市民ができること・市民と行政が協力してできること
市民ができること 市民が企画するイベントを行う 同世代のつながりを作る 学校の空き教室があれば、有効活用する 高齢者との交流による放課後授業 自治会活動の情報発信の強化
市民と行政が協力してできること まちづくりに関する「アイデアコンテスト」を行う 市民×専門家のまちづくり 声のかけやすい職員像、職場づくり 市民のアイデアを取り入れたイベントを実施 世代間をまたぐコミュニティをまとめていくリーダーの育成 広報紙に意見交換の場を設ける 各務原の魅力発信 ラインなどの SNS による PR を行う

（まとめ）

- 市民協働の必要性は認識されていますが、それに伴う個人の負担が大きいため、担い手が不足していくのではないかと意見がありました。
- コミュニケーションや人とのつながりがあるまちを理想とする意見が多くありました。
- 理想像の実現に向けて市民ができることについては、リーダーや人とのつながりに関係した人づくりが必要との意見やアイデアが多くありました。

【基本目標2：心豊かで文化を育む人づくりのまち（教育・文化・スポーツ）】

まちの現状
学校教育 校区により学力レベルや岐阜校区への通学に不利などの地域格差がある 青少年教育 人との関わり方を学ぶ場が必要 親世代が各務原の良いところを知らない 学びの機会 校区によっては図書館の利用が不便なため、利用する機会がない。 芸術・文化・歴史 各務原市には歴史的なものがたくさんある 各務原市には民俗博物館や美術館がない 大きなホールがなく、文化的なイベントがやりにくい スポーツ スポーツを行う場所が不足している
あなたが想うまちの理想像
学校教育 各務原市独自の教育がある 異文化教育や第二言語教育が充実している 外国人教師が充実している いじめがない学校づくり 人間を育てる教育がされている 青少年教育 地区をまたいだ子ども同士の交流がある 手本となる大人がいる 学びの機会 親子で各務原を楽しめる企画が充実している 生涯学習の講座が充実している スポーツ スポーツのできる場所が確保されている ホッケー王国

理想像の実現に向けて市民ができること・市民と行政が協力してできること

市民ができること

地域住民が学校ボランティアに参加する
市民自らが企画立案した講座を行う
スポーツ施設を複数団体で共有して使用する
市の広報を注視して市の取組を知る

市民と行政が協力してできること

各務原市独自の教育を行う
生涯学習の内容の充実や講座数を増やす
村国座、鵜沼宿などの歴史施設をPRする
親子参加型の歴史勉強会の開催
スポーツ施設を増やす
健康維持のためのスポーツを行う
里山の散策道の整備
小中学校の運動場を地域に開放する

(まとめ)

- 学校教育に対する重要性はもちろんのこと、青少年教育、文化、スポーツへの関心も高く、個人で学ぶだけではなく、親子や地域などのコミュニティ単位での学びの機会が欲しいとの意見がありました。
- ホッケーなど様々なスポーツ振興について、施設の充実や利用の拡充に対する提案や、スポーツを通じて健康維持につなげることへの意見がありました。

【基本目標３：豊かな自然と調和する共生のまち（環境）】

まちの現状
環境保護・保全活動 市民清掃に参加しているが、ごみが多い。 循環型社会 ゴミの分別がわかりやすい ゴミ回収や不燃物回収はうまくいっている ゴミ袋を路上に置くので景観が悪い 生活環境 公園が多く、自然豊かで住環境が良い 子どもが遊ぶ環境がある 公園がたくさんあるので子育てには良い 水がきれいでおいしい 街路樹が多く、緑の多い街になっている 道路に街路樹を植えすぎている 飛行機がうるさい 吸い殻、ペットボトルのゴミが多い 野良猫が各地で生存している
あなたが想うまちの理想像
環境保護・保全活動 環境についての分かりやすいワークショップが開催されている 子どもの頃から環境教育が行われている 生活環境 緑があふれる街

理想像の実現に向けて市民ができること・市民と行政が協力してできること
市民ができること 市民清掃や町内の清掃に積極的に参加する 市民一人ひとりが美しいまちを意識する ゴミの分別をしっかりとやる 歩きタバコの禁止 中学校や高校の制服のリサイクル販売会 ゴミを少なくする工夫を行う
市民と行政が協力してできること ゴミについてマナー教育を小中学校で実施 ゴミの問題を話し合う会議の設置 ふるさと納税のメニューに環境政策を加える 特定外来生物についての広報を行う 防音ドア、窓の補助制度を行う

（まとめ）

- ・タバコのポイ捨て、ゴミの分別、騒音など身近な生活環境に対しては、関心が高いと感じました。
- ・ゴミの適切な分別やゴミのポイ捨てなどは、市民一人ひとりの意識によりすぐに改善ができるとの意見がありました。市民と行政が協力してできることでは、個人の意識啓発から環境教育、補助制度までさまざまな意見やアイデアがありました。

【基本目標４：元気があふれる健やかなまち（保健・医療）】

まちの現状
健康づくり 公園が多いため、運動がしやすい 市民公開講座が少ない 市内にはウォーキングコースがあって良い 保健・予防 各種健康診断があって良い 健康診断のクーポンが良い 検診が充実している 出産できる病院が少ない 地域医療 身近に医療機関がある かかりつけ医を意識している人が少ない 休日診療のときに専門医のいることが少ない
あなたが思うまちの理想像
健康づくり 家庭の中で予防しあう 健康講座に参加しやすい仕組みがある 楽しい健康づくりの講座がたくさんある ウォーキングや散歩が行える安全な道がある 保健・予防 働いていても検診が受けやすい 地域医療 病院の情報が簡単に手に入る 病院の検索サイトが充実している 総合病院の医師が充実している 夜間専門の病院がある

理想像の実現に向けて市民ができること・市民と行政が協力してできること

市民ができること

自治会などが行う気軽な健康講座の実施
市民がつくる生きがいの場
母親同士で子育てなどの相談ができる場をつくる
生涯現役でいられるような身体づくり

市民と行政が協力してできること

気軽な健康講座をたくさん実施する
公民館を活用した健康相談を行う
地域の公園を活用したスポーツイベント等を行い健康増進を図る
安心して散歩ができる道の整備
土日でも検診が受けられるようにする
食育授業を実施する
医療機関を回るバスをつくる
感染症予防の理解を深めるため広報に努める
東海中央病院を市民病院にする
出産できる病院の充実

(まとめ)

- 健康に対する各個人の予防が必要であるとの認識が強く、ウォーキングや健康講座、スポーツによる健康増進に対する意見が多くありました。そのため道路環境の整備や公園、スポーツ施設等の活用についての提案がありました。
- 一人ひとりが健康であり、生涯現役でいられるような身体づくりのため、医療機関と行政が連携した施策を希望する意見もありました。

【基本目標5：支えあいと笑顔あふれる思いやりのまち（福祉・社会保障）】

まちの現状
地域福祉 近隣ケアグループの活動は素晴らしい 地域の高齢者向けのサークル活動が充実している 住民同士のつながりが薄いと感じる 民生委員の負担が大きい 社会保障 さまざまな制度の情報を得る手段がわからない 高齢者福祉 市役所のいろいろな課が高齢者向けの事業を行っているため、横断的に調整してほしい 老々介護が増えてきている デイサービスなどの高齢者サービスの選択肢がたくさんあって良い 子ども福祉 中学生までの医療費無料が良い 子育て相談、一時保育などが使いづらい
あなたが想うまちの理想像
地域福祉 世代を超えて、タテ・ヨコ・ナナメにつながるができる地域 地域のつながりが密になって暮らしやすいまち ゆるやかなつながりのあるまち 社会保障 母子家庭、父子家庭への支援が充実している 様々な支援を通じて心と身体にゆとりがもてる 高齢者福祉 健康診断に認知症を取り入れる 運転免許証返納者に対する助成対策がある 子ども福祉 子どもたちが気軽に福祉活動に参加できる

理想像の実現に向けて市民ができること・市民と行政が協力してできること

市民ができること

自治会への加入促進を行う
近隣ケア活動に子どもも参加する
要配慮者や独居老人のマップを作成する
介護をしている人同士の集まりを作る

市民と行政が協力してできること

様々な地域活動に参加することでポイントがたまる制度の導入
市内版パラリンピックの実施
各地域に取りまとめのリーダーを育成する
社会的な支援を必要とする方を独りにしない
ふれあいタクシーを充実させる
企業内託児所への補助を行う

(まとめ)

- 国の社会保障制度について、制度の情報を得る手段が分からないとの声があり、現状について意見は活発に出ませんでした。
- 福祉や地域の支えあいについては、高齢者のサークル活動や近隣ケアグループなどの活動を、世代を超えて行うことや地域のつながりを密にしていくことが必要との意見がありました。また、市民と行政ができることについて、福祉や社会保障の枠を超えた、ふれあいタクシーや企業内託児、パラリンピックなど、さまざまな意見やアイデアがあり、横断的な調整が必要となるものが多くありました。

【基本目標6：いつまでも住み続けたい安全・安心のまち（防災・防犯）】

まちの現状
防災体制 防災無線が聞こえづらい 防災意識の啓発が不足している 災害時要援護者台帳の情報が地域に周知されない 住宅団地内の土砂危険地域の土石流対策が必要 防災訓練のやり方に疑問がある 消防・救急 消防団の担い手が減ってきている 防犯・交通安全 学校での交通安全教室は良い 通学路見守り隊の存在はありがたい 警察の交通指導不足 防犯意識の啓発が不足している
あなたが思うまちの理想像
防災体制 地域のつながりが強化されている 地域ぐるみで自分の街を守れる 自治会、近所づきあいがあり、子どもから高齢者までみんなでまちを守る 防災推進員と防災士が組織化されている 災害時には市のホームページは防災情報中心になっている 小中学生に実践的な防災教育がされている 防犯・交通安全 地域での声かけ活動が行われている 見守り隊が継続的に活動されている

理想像の実現に向けて市民ができること・市民と行政が協力してできること

市民ができること

自治会ごとに防災訓練を実施する
校区単位での自主防災訓練を行う
市民が自宅に防災備品を設置する
防災について市民が考えるワークショップの開催
地域の中で防犯意識を高める
自主防災組織を楽しく行う
防災袋を各家庭に常備する
防災組織参画意識の向上
防災倉庫のカギを自治会に預ける

市民と行政が協力してできること

自衛隊と一緒に防災訓練を行う
小中学校で実践的な防災教育を行う
避難場所の目印を英語とポルトガル語にも対応させる
防災ルールブック、防災グッズの配布
災害時の避難生活に使える設備を公園に設置
高齢者宅に緊急防災ラジオの配付
地域と行政が防犯・防災について話し合う
災害時には市のホームページを非常時用にして、防災情報を最優先に出す
全世代に向けて交通ルールの再確認を行う
防犯カメラの設置

（まとめ）

- ・昨今の自然災害への懸念から防災意識の高揚が感じられる意見が多くありました。地震のみならず豪雨による水害や土砂災害などへの対応ができるように、市の防災訓練や自主防災組織の防災訓練に対する意見が多くありました。
- ・共働き世代や子を持つ親世代から、見守りや声掛け、防犯カメラの設置など、防犯体制の充実を求める意見がありました。
- ・高齢者の交通事故防止や、子どもへの交通安全教育や、全世代への交通安全に対する意識の向上の必要性についての意見がありました。

【基本目標 7：便利で快適に暮らせるまち（基盤整備）】

まちの現状
都市空間 桜やいちょうなどで季節を感じられる 市内を横断する 2 本の鉄道路線があり、岐阜や名古屋へのアクセスが良好 住居、観光地、工場などの棲み分けができている 桜木町の景観がきれい 雑草・雑木が処理されるようになった 街路灯で明るくなった 公園の駐車場が小さい 空き家が目立つ 街路灯が少ない 交通体系 南北方向の交通が限られている 交通量の多い幹線道路の抜本的改修の必要性 農村部の夜道が暗い 団地等の道が狭いため、防災面で心配な部分がある 上下水道・河川 水道水がおいしい 河川が小さいため、大雨であふれる危険性がある 公共交通 電車に乗れば移動は簡単にできる JR、名鉄、岐阜バスがある ふれあいバスがもう少し使いやすいと良い
あなたが思うまちの理想像
都市空間 河原、ランニングコース、公園の整備がされている アスレチックや BBQ 場などがある公園が整備されている スマートインターチェンジの開設

交通体系

街路灯を整備して安心できる道路がある
バリアフリー化された歩道がある
歩行者にやさしい生活道路
点字ブロックが整備された障がい者にやさしい歩道の整備

自転車用の車道が整備されている

上下水道・河川

市内河川の整備がされている

公共交通

車を持っていない人でも東西南北自由に移動できるふれあいバスがある
ふれあいバスのデザインが市のイメージ（桜、博物館）
キャラクターバスがある
ふれあいバスは乗り継いでも 100 円
高齢者の免許返納者に対するふれあいバスの優遇

理想像の実現に向けて市民ができること・市民と行政が協力してできること

市民ができること

市内の危険な箇所を市民が市に伝える
自治会で地域の身近な問題点について話し合う
私有宅地・空き家の有効活用
歩く

市民と行政が協力してできること

市民ニーズに合わせた道路改良、河川改修を行う
身近な道の問題点について行政と市民の話し合いの場を設ける
空き家の活用を考える

（まとめ）

- 様々な意見がありましたが、都市空間全体として緑が多く、住宅、観光施設、工場などの棲み分けができているなど、概ね良い意見がありましたが、空家が目立つとの意見もあり、空家対策が必要との提案もありました。
- ふれあいバスの利用については、路線数や時刻表、乗り換えなどについて、利用しづらいとの声がありましたが、高齢者の増加に伴い、今後はますます重要になっていくとの意見がありました。

【基本目標８：賑わいと創造性を感じる活力あるまち（産業）】

まちの現状
都市ブランド 各務原市は自慢できる産業がたくさんあるが、あまり他県に知られていない 各務原市の CM をたくさん作ったが、あまり活用されていない 観光・交流 埋もれている観光資源があり、有効に使われていない 旅行案内業者が少ない 宿場町の賑わいが足りない 河川環境楽園や博物館など観光施設があるのにアクセスが悪い 農業 休耕地が多い 担い手が不足している 耕作放棄地が迷惑になっている
あなたが想うまちの理想像
観光・交流 観光地を点から線で結ぶような形にできれば良い コアな観光地があり、飲食店も潤うまち 農業 にんじんをもっと強く発信 雇用 ものづくり専門学校（工業高校含め）や航空系の大学等の誘致 飛行機好きな子ども達向けに特化したアミューズメント施設

理想像の実現に向けて市民ができること・市民と行政が協力してできること

市民ができること

市の特産品を友人などに伝える
SNS 等を活用して市民が PR する
テクノプラザでのイベント

市民と行政が協力してできること

市長おすすめの飲食店を広報で紹介
ブランド戦略会議をしっかりと行う
フィルムコミッションの活用
若い人と高齢者が楽しめる産業祭のようなイベントを行う
観光協会のホームページが見やすくする
各務原市の特産品のアピール強化
にんじんと航空を活用した取組
市民への市内企業紹介を行う
ハローワークの広報活動の強化

(まとめ)

- ・主要産業である航空機産業と特産品であるにんじんに対する意見が多くありました。
- ・観光については、観光資源はあるものの有効活用されていないため、戦略的に行う必要があるとの意見がありました。
- ・農業の担い手不足による耕作放棄地や休耕地などに対して、具体的な解決策や意見はありませんでしたが、市の特産品への支援や産業・農業祭などのイベントによる支援を提案する意見がありました。

4. コミュニティ診断士のコメント

- ・県内の様々な自治体や学校から依頼を受けてワークショップを行っているが、全体を通して、参加者からは建設的な意見が多く、良い雰囲気で行うことができました。
- ・女性と若い世代の参加者が多く、とても良いと思いました。
- ・参加者からは多くの発言があり、とても進行しやすいワークショップでした。